

私がブラコンなのはど
う考えてもイザークが
悪い

剣聖ルーファス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

更なる進化の選挙活動にミカエラを推そう（短絡的思考）な話。

目次

| | |
|----------------------|---|
| 私がブラコンなのはどうか考えてもイザイザ | 1 |
| クが悪い | 1 |

私がブラコンなのはどう考えてもイザークが悪い

「イザーク、私の話を聞いてください」

「姉さん、ここは魔界なんだが」

「姉弟の繋がりに、垣根は存在しないのですよ。それですね、第二回GPの話なのですか」

「……ああ、おめでとう。魔界でも、限定化したとは聞いている」

「ふふん、ありがとうイザーク。合コンの際にはGPな姉さんの名前を使ってもいいのですよ。聖王のお墨付きです」

「……それは遠慮しておこう。それで、本題はなんだ？まさか、話がそれだけではないだろう」

「？この事を報告に来たんです。あ！なるほど、イザークも姉さんともっと世間話が出たかったですね！」

「いや、そうじゃない」

「照れですか？初ですね。遠慮はしなくていいのですよ、姉弟ですからっ！」

「……。随分と、フットワークが軽くて無遠慮な聖王がいたもんだな、こー——」

「イザアアアク!! 姉さんのことは姉さんと呼びなさい!! 今はプライベートなのですよ
!?!」

「……悪かった、許してくれ」

「ツーン……ミカエラお姉ちゃんボソツ」

「え?」

「ミカエラお姉ちゃん大好きボソツ」

「……」

「ミカエラお姉ちゃん大好き♡と言いなさい」

「空耳であつて欲しかった」

「イザークは、姉さんのことが嫌いなのですか? だから頑なに、拒むの　です　う、か

……」　チラチラ

「そうだ」

「ふえ?……嘘ですよ、そんな……う、うそに」

「そうだ。ミカエラお姉ちゃん大好き」

……。

「イザアアアク!!」

「フン……」

「イザアアアアアアアアアク!!!」ガバッ

「くるなっ!？」

「あ痛っ、イザアアアアク!!」ダキッ

「……今日は調子が狂いつぱなしだ」

「うふふ、イザーク。前より少し、背の羽が大きくなりましたね」

「魔界は空気が違う。この魔力による影響だろう」

「じつはイザーク。私も、成長しました。さて、どこか分かりますか？ ヒントは、今も当たっています」

「……腕が伸びたのか？」

「腕、腕て、魔族じゃないんだから。はあ……ほんとにはあ……イザークには失望しました。ご褒美タイムはお終いです」

「別に、姉さんの言いたいことが分からないでもない。ただ、無いものは無いからな。嘘は吐けん」

「イザークの馬鹿! もう知りません!」

そうして姉は、天界に帰っていった。俺は必至に笑いを堪えている部下に雷撃を浴びせた後、強固な結界を張るように指示を出したのだった。

今度こそ結界が機能するかは別として、拒絶の意思だけでも伝わればいいと願う。な

んの為に俺がバランスを取っているのか、知らないわけじゃないだろう。これに懲りて

「聞いてくださいイザーク……イザーク？（バリイン!!）イザアアアク!!」

やっばりなッ！——完——